

「養護概説」と「健康相談活動の理論及び方法」のシラバス調査

—— 関連科目における養護教諭の複数配置に関する教育実態——

斉藤ふくみ*・鈴木薫**・山崎隆恵***

(2017年10月25日受理)

The Syllabus Survey on “Yogo-Gaisetsu”“Theory and Methods of Health Consultation Activities”:
Status of Related Subjects Related to Multiple Placement Education of Yogo teachers

Fukumi SAITO, Kaoru SUZUKI and Takae YAMAZAKI

キーワード: 複数配置に関する教育, シラバス, 養成機関

本研究は、養護教諭の複数配置に関する養護教諭養成機関における教育内容及び授業構築を目指して、その基礎作業として全国の養護教諭養成機関の「養護概説」と「健康相談活動の理論及び方法」のシラバス調査を行い、複数配置に関する教育の実態を把握することを目的とする。調査対象は全国の養護教諭養成機関のうち日本養護教諭養成大学協議会に参加している118校である。118校のうち、internetでシラバスを閲覧できたのは108校(91.5%)であった。internetで公開されている「養護に関する科目」のうち養護教諭教育の基礎科目に位置づく必修科目である「養護概説」関連開講科目及び「健康相談活動の理論及び方法」関連開講科目のシラバスを調査した。108対象機関のうち、シラバスに複数配置が記載されているのは、1大学の「養護概説」関連開講科目1科目のみであった。複数配置については扱っている養護教諭養成機関は少なく、学校現場の複数配置の進捗を受けて、早期に授業内容の創出と授業構築を図る必要性が示唆された。

はじめに

我が国の養護教諭複数配置は、1964年頃より大阪など一部の地域で始まり¹⁾、現在は「第7次公立義務教育諸学校教職員配置改善計画」及び「第6次公立高等学校学級編成及び教職員配置改善計画」による基準に基づき、小学校は児童数851人以上、中学校・高等学校は生徒数801人以上、特別支援学校は児童生徒数61人以上に複数の養護教諭が配置されて10数年が経過した。平成9年(1997年)保健体育審議会答申²⁾において「養護教諭の複数配置について一層の促進を図ることが必要である。」と提言され、平成20年(2008年)中央教育審議会答申³⁾においても「養護教諭の

*茨城大学教育学部 **就実大学 ***北海道教育大学

複数配置の促進などを図ることが必要である。」と提言されている。さらに、平成 27 年（2015 年）同答申⁴⁾では「今後、国において、複数配置の基準の引き下げについても検討していくべきである。」と提言され、複数配置の促進が一層期待される。

大野らの報告⁵⁾によると、現職養護教諭の 8 割近くが複数配置を望んでおり、また後藤の報告⁶⁾によると、生徒の 9 割以上が複数配置は「良いことである」と答えていることが示されている。養護教諭については、従来の単数配置を念頭に置いた捉え方から脱却し、複数配置に対応した養護教諭の職務のあり方など、養成段階のうちから複数配置について考える機会を設ける⁷⁾ ことが必要であり、養成教育の変革・改善・充実を図ることが緊喫の課題といえるだろう。

本研究は、養護教諭の複数配置に関する養護教諭養成機関における教育内容及び授業構築を目指して、その基礎作業として全国の養護教諭養成機関の「養護概説」と「健康相談活動の理論及び方法」のシラバス調査を行い、複数配置に関する教育の実態を把握することを目的とする。

方法

調査対象は全国の養護教諭養成機関のうち日本養護教諭養成大学協議会に参加している 118 校⁸⁾ である。internet で公開されている「養護に関する科目」のうち養護教諭教育の基礎科目に位置づく必修科目である「養護概説」関連開講科目及び「健康相談活動の理論及び方法」関連開講科目のシラバスを調査した。シラバスより、科目名、担当教員、開講時期、単位数、授業内容、使用教科書について、可能な範囲内で読み取り、データ化し、エクセルにて集計し解析した。なお、internet で公開されているシラバスでは、教育課程表を確認することは困難であるため、「養護概説」関連開講科目については、科目名に「養護」の表記があり、かつ授業内容を確認したうえで関連開講科目としてカウントした。同様に「健康相談活動の理論及び方法」関連開講科目についても、「健康相談活動」（ヘルスカウンセリングを含む）の表記があり、かつ授業内容を確認したうえで関連開講科目としてカウントした。

調査期間は 2015 年 7 月 1 日～31 日である。

結果

1. 対象機関の概況

118 校のうち、internet でシラバスを閲覧できたのは 108 校(91.5%)であった。対象機関の特性は、教育系 24 機関(22.2%)、看護系 57 機関(52.8%)、学際系(健康科学、心理、生活、保健、家政、福祉、体育、栄養) 27 機関(25.0%)であった。看護系が半数を占め、教育系は 2 割であった。学際系は、27 機関のうち健康科学 6 機関、心理 5 機関、生活 4 機関、保健・家政・福祉が各 3 機関等となっており、健康科学と心理が合わせて 11 機関(全体の約 1 割)であった。

2. 関連開講科目について

「養護概説」関連開講科目は、「養護概説」「養護概論」等 162 科目であり(表1)、「健康相談活動の理論

及び方法」関連開講科目は、「健康相談活動」「健康相談活動論」等 87 科目であった(表2)。「養護概説」関連開講科目における平均開講科目数は、教育系が最も多く 2.5 科目、次いで学際系が 1.6 科目、看護系が 1.1 科目と最も少なかった。教育系では、3 大学において「養護概説」関連開講科目として 5 科目が開講されていた。一方「健康相談活動の理論及び方法」関連開講科目における平均開講科目数は、教育系が最も多く 1.2 科目、次いで学際系が 0.96 科目、看護系は 0.56 科目であった。

| 系 | 大学数 | 開講科目数 | 平均開講科目数 |
|-----|-----|-------|---------|
| 教育系 | 24 | 58 | 2.5 |
| 看護系 | 57 | 62 | 1.1 |
| 学際系 | 27 | 42 | 1.6 |
| | 108 | 162 | 1.5 |

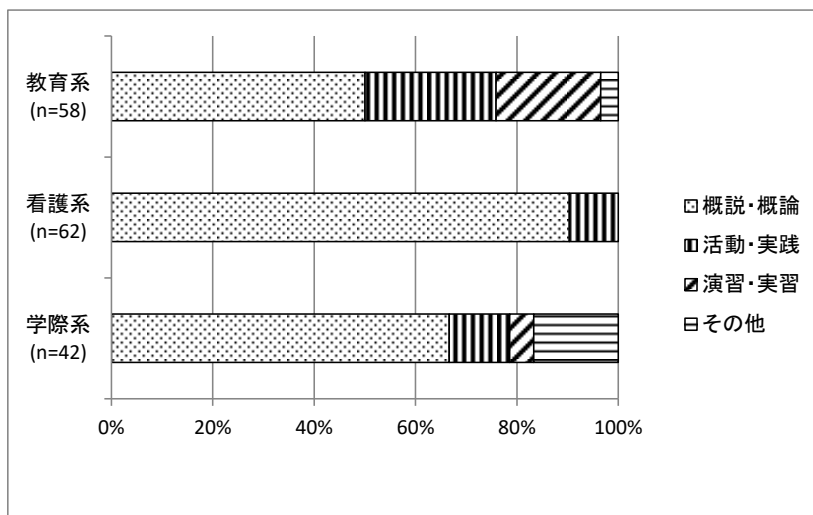
| 系 | 大学数 | 開講科目数 | 平均開講科目数 |
|-----|-----|-------|---------|
| 教育系 | 24 | 29 | 1.2 |
| 看護系 | 57 | 32 | 0.56 |
| 学際系 | 27 | 26 | 0.96 |
| | 108 | 87 | 0.81 |

3. 開講科目の教育内容の傾向について

教育方法は、大学設置基準第 25 条に「授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。」と定められているが、シラバスからは教育方法の読み取りが困難であることから、科目名及び授業内容から教育内容の傾向を捉えた。「養護概説」については、「概説・概論」「活動・実践」「演習・実習」の三区分で教育内容の傾向を把握した。「養護概説」関連開講科目の教育内容の傾向をみると(図1)、教育系は「概説・概論」が 50.0%、「活動・実践」が 25.9%、「演習・実習」が 20.7%と基礎理論に加えて発展理論、さらに実践力育成につながる演習・実習を開講していることが捉えられた。看護系は 9 割が基礎理論で占められており、学際系は基礎理論が 6 割強、発展理論が 1 割となっていた。その他には健康診断各論や職務など限局された内容が扱われていた。一方「健康相談活動の理論及び方法」については、「理論」と「演習」の二区分で教育内容の傾向を把握した。「健康相談活動の理論及び方法」関連開講科目の教育内容の傾向をみると(図2)、教育系において演習が 6.7%開講されている一方、看護系と学際系では演習は開講されていなかった。

4. 使用教科書について

広辞苑によると、教科書は講義の概略を記した印刷物である。授業者がその授業科目で教授する内容を把握する資料となり得、授業者の拠り所を探る資料となり得ると考え探索した。使用教科書は、「養護概説」関連開講科目において 38 文献であった(表3)。「健康相談活動の理論及び方法」関連開講科目において 26 文献であった(表4)。「養護概説」関連開講科目の使用教科書の上位を対象機関別にみたものは表5である。教育系・看護系・学際系ともに使用している文献は「四訂養護概説」「学校保健実務必携」「新養護学概論」があげられる。その他看護系では「国民衛生の動向」が教科書として 2 位を占めた。一方「健康相談活動の理論及び方法」関連開講科目の使用教科書の上位を対象機関別にみると(表6)、対象機



傾向

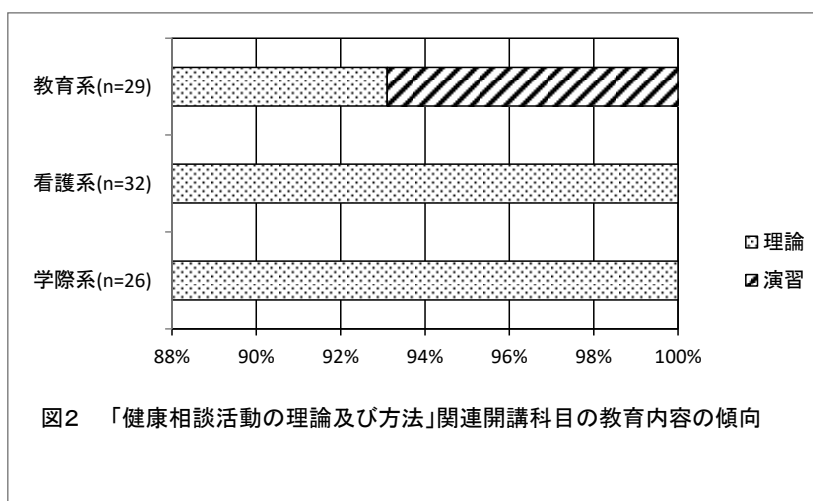


図2 「健康相談活動の理論及び方法」関連開講科目の教育内容の傾向

関は「健康相談活動の理論と実際」「養護教諭の行う健康相談活動」を共通で使用していた。

5. シラバスにおける複数配置の取り扱い

108 対象機関のうち、シラバスの授業内容に複数配置の文言を確認できたのは、1 大学の「養護概説」関連開講科目のみであった。複数配置は例えば答申等に記載はあり、授業の中で触れられていると考えられるけれども、あくまで推測となるため、ここでは複数配置の文言が授業内容に明示されているものをカウントした。

6. 教科書等における複数配置の記述について

表5及び表6に挙げられた教科書において、複数配置に関わる記述についてみたところ、表6の「健康相談活動の理論及び方法」関連開講科目の教科書には記述は見あたらなかった。表5の「養護概説」関連開講科目の教科書の上位文献では、A, B2 文献において複数配置について記載されていた。A文献は、養護教諭の配置基準に加えて、養護教諭が保健学習を担当するにあたって「養護教諭複数配置校の場合は、一方が授業をしている間、もう一方は保健室で仕事をするようにする。」と具体的に保健室体制の工夫について記述されていた。B文献は、最も複数配置について詳細に取り扱っており、1) 養護教諭の配置状況、2) 保健室を取り巻く環境、3) 利点、4) 協働関係を築くための要件、5) 複数配置を機能させるために、の5項目にわたって記述されていた(表7 参照)。

| 養護概説・教科書 | 出版社 |
|-----------------------------|-----------|
| 新版・養護教諭執務の手引き第9版 | 東山書房 |
| 四訂養護概説 | ぎょうせい |
| 学校アレルギーガイドライン | 文部科学省 |
| 学校保健実務必携 | 第一法規 |
| 保健室経営マニュアル | ぎょうせい |
| 新・養護学概論 | 東山書房 |
| 杉浦守邦 養護概説 | 東山書房 |
| 新養護概説 | 少年写真新聞社 |
| 養護教諭の健康相談ハンドブック | 東山書房 |
| 養護教諭の活動の実際 静岡 | 東山書房 |
| 養護教諭、看護師、保健師のための学校看護 | 東山書房 |
| 国民衛生の動向 | 厚生労働統計協会 |
| 日本学校保健会「児童生徒の健康診断マニュアル」 | 日本学校保健会 |
| 学校保健の課題とその対応 | 日本学校保健会 |
| 学校小六法2012年度版 | 協同出版 |
| 保健室経営 ぎょうせい | ぎょうせい |
| これだけは知っておきたい養護教諭の実践に活かす教育法規 | 行政 |
| 養護教諭のための診断学 内科編 | 東山書房 |
| 養護教諭のための診断学 外科編 | 東山書房 |
| 養護実習ハンドブック | 東山書房 |
| 学校における養護活動の展開 ふくろう出版 | ふくろう出版 |
| 養護教諭のためのフィジカルアセスメント | 日本小児医事出版社 |
| 養護教諭の役割と教育実践 | 学事出版 |
| 初心者のためのフィジカル・アセスメント | 東山書房 |
| 公衆衛生看護活動Ⅱ | 医学書院 |
| 性の健康教育と養護教諭の役割 考古堂書店 | 考古堂書店 |
| 教育としての学校保健 | 大修館書店 |
| 東京アカデミー「教員採用試験養護教諭」 | 東京アカデミー |
| 児童生徒の健康診断マニュアル | 日本学校保健会 |
| 学校保健ハンドブック ぎょうせい | ぎょうせい |
| 養護教諭が担う教育とは何か | 農文協 |
| 教育としての健康診断 | 大修館書店 |
| 学校環境衛生管理マニュアル | 文部科学省 |
| 教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応 | 文部科学省 |
| 学びの航路 | 記載なし |
| 養護実習の手引き | 記載なし |
| 感染症 | 記載なし |
| 保健室で役立つステップアップフィジカルアセスメント | 東山書房 |

考察

1. シラバスから把握される複数配置に関する教育の現状と課題

現職養護教諭の8割近くが望んでおり、答申においても促進を提言されている複数配置について、対象養成機関のうちシラバスに複数配置の文言が記載されているのは、1大学の「養護概説」関連開講科目1科目のみであった。各対象機関は授業の中で複数配置について触れていることは推測されるが、シラバス上に明記している機関はわずかであった。教科書における複数配置に関わる記述をみると、1

| 健康相談活動・教科書 | 出版社 |
|---------------------------|-----------|
| 健康相談活動の理論と実際 | ぎょうせい |
| カウンセリングの技法 | 誠心書房 |
| 養護教諭が行う健康相談活動 | 東山書房 |
| 養護教諭の健康相談ハンドブック | 東山書房 |
| 新養護概説 | 少年写真新聞社 |
| カウンセリングの理論 | 誠心書房 |
| 四訂養護概説 | ぎょうせい |
| 特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理 | ミネルバ書房 |
| 生徒指導提要 | 文部科学省 |
| 情緒発達の看護の基本 | ANCメディカ出版 |
| 養護教諭の相談的対応 | 学事出版 |
| 心をつめる養護教諭たち | ミネルバ書房 |
| 保健室と養護教諭 | 国土社 |
| 養護教諭が行う健康相談 | ふくろう出版 |
| 健康相談活動 | 記載なし |
| 健康相談活動 | 記載なし |
| 教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応 | 文部科学省 |
| 教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引 | 文部科学省 |
| 学校アレルギーガイドライン | 文部科学省 |
| 養護教諭の活動の実際 | 東山書房 |
| 事例から学ぶ児童生徒への指導と援助 | ナカニシヤ出版 |
| 学校保健実務必携 | 第一法規 |
| 子どもたちを児童虐待から守るために | 文部科学省 |
| 学校における子どもの心のケア | 文部科学省 |
| 教師が知っておきたい子どもの自殺予防 | 文部科学省 |
| 新版・養護教諭執務の手引き第9版 | 東山書房 |

文献において詳細に取り上げられている他は養護教諭の各実践に沿って複数配置における養護教諭の仕事の分担や進め方、保健室経営との関連、評価等について理論化が進んでいるとはいえない状況が捉えられた。

「養護概説」における使用教科書と授業内容について調査した天野らの報告⁹⁾においても、複数配置に関する内容の取扱いはみられなかった。「健康相談活動の理論及び方法」における使用教科書と授

業内容については竹田らの報告¹⁰⁾と今野らの報告¹¹⁾がみられる。いずれも複数配置に関する内容の

表5 対象機関が使用している「養護概説」関連開講科目の教科書一覧(上位書物)

| 教育系(n=24) | 看護系(n=57) | 学際系(n=27) |
|-----------------|-----------------|--------------|
| 教科書 | 教科書 | 教科書 |
| 四訂養護概説(12) | 学校保健実務必携(17) | 学校保健実務必携(11) |
| 学校保健実務必携(12) | 国民衛生の動向(13) | 新養護概説(11) |
| 新版養護教諭執務の手引き(9) | 新・養護学概論(10) | 四訂養護概説(6) |
| 新・養護学概論(5) | 新養護概説(10) | 新・養護学概論(4) |
| | 新版養護教諭執務の手引き(6) | |
| | 四訂養護概説(6) | |

表6 対象機関が使用している「健康相談活動の理論及び方法」関連開講科目の教科書一覧(上位書物)

| 教育系(n=24) | 看護系(n=57) | 学際系(n=27) |
|--------------------|-------------------|-------------------|
| 教科書 | 教科書 | 教科書 |
| 健康相談活動の理論と実際(7) | 養護教諭が行う健康相談活動(12) | 養護教諭が行う健康相談活動(11) |
| 養護教諭の行う健康相談活動(3) | 健康相談活動の理論及び実際(4) | 健康相談活動の理論と実際(4) |
| 養護教諭の健康相談ハンドブック(3) | | |

表7 上位文献(表5・表6)に記述されている複数配置の関連箇所

| 文献 | 記述 |
|----|---|
| A | 養護教諭の配置について義務教育学校標準法及び高校標準法について記述。 保健学習・・・養護教諭複数配置校の場合は、一方が授業している間、もう一方は保健室で仕事をするようにする。 |
| B | 養護教諭の複数配置と養護活動 1) 養護教諭の配置状況 2) 子どもと保健室を取りまく環境 3) 複数配置の利点 4) 複数の養護教諭が協働関係を築くための要件 5) 養護教諭の複数配置を機能させるために (4頁にわたり記述) |

取扱いは見られなかった。これらのことから、養成段階において、学生は複数配置での養護活動の理論及び実際を学ぶ機会はほとんどないと捉えられる。

対象機関が使用している教科書・参考書の上位文献をみると、「養護概説」関連開講科目では、各系の対象機関が依拠する理論背景はほぼ一致している傾向が捉えられた。「養護概説」が新設された後約20年を迎え、理論化構築の道程が示唆された。「健康相談活動の理論及び方法」関連開講科目においても、「養護概説」関連開講科目同様に各系の対象機関が依拠する理論背景はほぼ一致している傾向が捉えられた。その一方で、「養護概説」関連開講科目においては「教員採用試験」、「健康相談活動の理論及び方法」関連開講科目においては「特別支援教育」や「アレルギー」に特化した教科書の使用が散見された。養護教諭の専門性に関わる理論的根幹の教育をどこに基軸を置いて行うのか、基礎理論に準拠していないと推測される養成機関がみられた。養護教諭の資質能力と専門性は、免許状取得と同時に担保されるべきであることから、基礎理論の教育は保障されなくてはならない。そのうえで複数配置に関する教育は、養護教諭教育の基礎理論に組み込まれることによって、卒後単数配置であれ複数配置であれ、とまどいなく勤務することが可能になると考える。

2. 複数配置に関する教育内容

養護教諭養成教育は、看護を主体として次いで様々な学問体系を背景とした学際系が占め、教育系の養成は少なく、教育職員である養護教諭養成について今後どのように充実させていくかについて課題として捉えられた。

養成機関として大勢を占める看護系では、「養護概説」関連開講科目は1科目しか開講されていないという実態が把握された。「健康相談活動の理論及び方法」関連開講科目においては、学際系と看護系は

1科目に満たないことから、学際系と看護系ともに教育職員免許法で定められている2単位を確保するために、「健康相談活動の理論及び方法」に相当する名称の科目以外の科目を読み替えにより単位の充當を行っている状況が推測された。このことは、後藤ら¹²⁾の養護教諭一種免許状取得の課程認定を受けている4年制大学の「健康相談活動の理論及び方法」の開講状況について、読み替えが行われているという報告から10年を経過した現在においても同様の状況であることを示している。本研究では、読み替え科目の授業内容等について把握、分析するに至らなかった。読み替え科目が、学校において主に保健室で行われる子どもの心身の訴えに養護教諭が専門的に対応する健康相談活動を扱う授業内容であるかどうか、今後調査、分析されることが望ましい。

「養護概説」関連開講科目の教育内容の傾向では、教育系は概説・概論を扱う基礎理論に加えて活動・実践を扱う発展理論、さらに実践力育成につながる演習・実習を開講していることが捉えられ、看護系及び学際系の基礎理論主体の教育内容との間に力点の置き所の違いが浮き彫りとなった。近年実践力のある養護教諭の育成が求められているなか、養成教育における演習・実習科目の開発・充實が課題として捉えられる。「健康相談活動の理論及び方法」関連開講科目の教育内容の傾向では、教育系のみ演習が取り入れられていた。「健康相談活動の理論及び方法」は科目そのものに方法という演習領域を含むものである。理論と演習を充足させるための方法を扱う演習・実習領域の授業開発を進めていくことが求められる。

複数配置に関する教育においては、理論だけでなく、複数の養護教諭が協働して専門性を発揮していくことにより、複雑・多様化した子どもの健康課題解決に向けて単数配置の2倍・3倍の力を発揮できるようにどのように教育していくべきであろうか。複数の養護教諭が連携・協働して養護実践を担っていく具体的なイメージ作りのためには、演習・実習形態の授業の取り組みは必須であろう。本研究結果からは、「養護概説」関連開講科目の使用教科書では複数配置に関する教育が記述されているものが確認できたが、「健康相談活動の理論及び方法」関連開講科目の使用教科書には記述がみられなかった。子どもたちの心身の健康課題に直接的に対応する健康相談活動にこそ、複数の養護教諭がどのように協力体制を築いて臨んでいくか教育されることが望まれる。

3. 養護教諭養成機関における複数配置に関する授業構築に向けて

本研究で得られた結果より、複数配置に関する教育内容の整理と授業構築のモデル化の検討が今後の課題としてあげられる。複数配置校における養護活動や来室者への対応に関する実践の参観調査¹³⁾や実際に複数配置で勤務している2人の養護教諭による保健室経営の実践報告¹⁴⁾は、ともに一日のタイムスケジュールの詳細な記録や業務分担の対応表が示され、学生が複数配置の活動をイメージできる可視化された教材としての意義が大きい。これらの先行研究を活用しながら、授業の試行による授業研究を行い、授業モデルを構築していきたい。

結論

108対象機関のうち、シラバスに複数配置が記載されているのは、1大学の「養護概説」関連開講科目1科目のみであった。複数配置については取り扱っている養護教諭養成機関は少なく、学校現場の複数配置の進捗を受けて、早期に授業内容の創出と授業構築を図る必要性が示唆された。

注

- 1) 後藤ひとみ「複数配置の現在までの歴史的流れ」『健康教室』, 623, 2002, 8.
- 2) 文部省:保健体育審議会「生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツの振興の在り方について」(答申), 1997
- 3) 文部科学省:中央教育審議会「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」(答申), 2008
- 4) 文部科学省:中央教育審議会「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」(答申), 2015
- 5) 大野泰子・永石嘉代子・米田綾夏他「養護教諭複数配置と男性養護教諭—質問紙調査からの検討・第2報—」『鈴鹿短期大学紀要』, 28, 2008, 104.
- 6) 後藤ひとみ「生徒からみた複数配置の役割に関する一考察—実施校における保健室来室者の意見—」『第43回日本学校保健学会講演集』, 1996, 384-385.
- 7) 飯嶋美里・斉藤ふくみ「養護教諭の複数配置—現職養護教諭が考える理想的な複数配置の検討—」『茨城大学教育学部紀要(教育総合)』, 増刊号, 2014, 342.
- 8) 日本養護教諭養成大学協議会ニューズレター, vol.26, 2015, 6.
- 9) 天野敬子・小川文子「『養護概説』についての研究第1報シラバスの検討および担当教員への調査から」『愛知教育大学養護教育講座研究紀要』, 7(1), 2006, 26-27.
- 10) 竹田由美子・大谷尚子・大原榮子他「健康相談活動の教育内容の検討—シラバスを使った分析—」『第49回日本学校保健学会講演集』, 2001, 222-223.
- 11) 今野洋子・高橋英実・寺崎由貴他「養護教諭養成教育における「健康相談活動の理論及び方法」開講の実態と課題—シラバス内容の類型化による分析—」『日本養護教諭教育学会誌』, 13(1), 2010, 137-149.
- 12) 後藤ひとみ・三木とみ子・徳山美智子他「『健康相談活動の理論及び方法』の開講に関する現状と課題—養護教諭一種免許状取得の課程認定を受けている四年制大学の実態から—」『日本健康相談活動学会誌』, 1(1), 2006, 33-45
- 13) 後藤ひとみ・小川佳子・内山奈美子「複数配置校における養護教諭の活動実態—一日の活動及び保健室来室者への対応から捉えた利点—」『愛知教育大学研究報告』, 54(教育科学編), 2005, 49-53.
- 14) 廣井直美・米原裕美「養護教諭複数配置の保健室経営」『日本教育大学協会養護部会全国国立大学附属学校連盟養護教諭部会研究集録』, 49, 2014, 21-26.